

令和7年度 第1回 吹田市立図書館協議会（会議要録）

開催日時:令和7年(2025年)7月10日(木)午後2時～4 時

開催場所:吹田市立中央図書館4階集会室

出席委員:瀬戸口会長、日置副会長、大坪委員、飯田委員、岡委員、岸本委員、岩本委員、
上村委員、領木委員

欠席委員:山口委員

事務局:二宮地域教育部長、大平中央図書館長、桑名参事、添田主幹、栗生主幹、伊藤千里図書館長、谷川江坂図書館長、澤井さんくす図書館長、迫田千里山・佐井寺図書館長、高砂千里丘図書館長、長尾健都ライブラリー館長、佐野山田駅前図書館長、川本北千里図書館長(指定管理事業者)

傍聴者:1名

I 令和7年度 第1回 吹田市立図書館協議会次第

1 新任委員紹介

2 「令和6年度(2024年度)吹田市立図書館点検・評価報告書(案)」について

3 報告事項

- (1) 「令和7年度(2025年度)吹田市立図書館の目標」について
- (2) 令和7年度当初予算について
- (3) 吹田市立図書館の報告事項
- (4) 吹田市立北千里図書館(まちなかりビング北千里)令和6年度事業報告について

4 その他

- (1) 次回日程について
- (2) その他

II 会議要録

1 新任委員紹介

(新任委員挨拶)

2 「令和6年度(2024年度)吹田市立図書館点検・評価報告書(案)」について (事務局説明)

岡委員:パスファインダーという言葉について、あまり浸透していないのではないかと初めて聞いた。具体的にどのようなものなのか。

大平館長:ひとつのテーマについて A4(の紙)の表裏で、いろいろな情報の探し方を紹介している。専門機関の紹介や、こういう資料を探すときはこういう方法が便利だとか、方法をまとめたもの。特に健康・医療情報サービスは、病気や疾患ごとにニーズのあるテーマから毎年数種類増やしている。

長尾館長:図書館ホームページにも掲載し、調べるための機関等のホームページのリンクを貼っている。紙の方でも QR コードを貼り付けて、探しやすいよう工夫している。

岩本委員:「パスファインダーの使い方」という講座を開催したとあるが、講座名を工夫してはどうか。何人の方が参加されたのか。

長尾館長:参加は4名で少なかったが、図書館のタブレット端末を活用し、実際に一緒に調べるということができた。講座名については工夫したい。

二宮部長:図書館の分野では当たり前の用語かもしれないが、一般の市民には分からない用語だ。例えば、パスファインダーの前に説明するような言葉を入れるなど、意味が分かるような記載に今後改めたい。

岸本委員:基本目標1のレファレンス受付件数には、子供はどのくらい入っているのか。宿題タスケルンジャーも入るのか。子供に配られている1人1台端末で、学校からでも予約等できるのか。電子図書を1人1台端末で読むことができるのか。学校でそれを推奨しているのか。

添田主幹:レファレンスの受付件数には子供を含めている。10分の1くらいが子供からの質問。宿題タスケルンジャーも含めている。学校で貸与されている1人1台端末のデスクトップにすいた電子図書館の入口(アイコン)を付けている。図書館の(紙の本の)利用については、1人1台端末から直接はできず、別途借出カードを作る必要がある。(電子図書館の広報として)学校を通じて、ちらしなどを配り、特に朝の読書の時間とかに利用いただけたらと案内している。

飯田委員:吹田の図書館のレファレンスは、とてもすばらしいと思っている。利用していない方たちへの利用促進として、市役所での出張登録会はとてもいい取り組みだ。本庁以外でもあれば、自分の近くの図書館に行きたいと思うのではないかな。そういう取り組みを増やすと、もっとレファレンスを使ってもらえるのではないかな。

大平館長:指標の解釈で間違いがあった。9ページ、指標の「講師派遣回数」は目標回数、年10回に対する達成度が指標。「経年比増」は間違い。令和6年度の目標は、10回に対して10回実施で100%となる。それに対して実績は9回であるため、今年度の実績は90%になる。評価「C」にしているが、「B」の評価に変更したい。

上村委員:令和5年度よりも講師派遣回数が減った原因は何か。

大平館長:原因の分析はできていない。受け付けたものに対して派遣している。指標の10回については、(図書館が)10施設あることから、各館年1回という考え。

領木委員:全国の図書館でも協議会で評価報告書を作成しているのか。例えば、中之島図書館でも作成しているのか。

日置副委員長:中之島図書館では、図書館協議会は大阪府立図書館として設置している。府立図書館として実施した報告を作成している。図書館協議会は自治体によって設置していないところもある。設置している自治体ではおそらく報告を出していると思う。

大平館長：図書館法第7条2項の規定に「文部科学大臣は、図書館の健全な発達を図るために、図書館の設置及び運営上望ましい基準を定め、これを公表するものとする。」という条文がある。そこから派生し、「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」が公表されている。その中で、第2 公立図書館 1 市町村立図書館 項番1 管理運営 (1)基本的運営方針及び事業計画で、基本的運営方針を踏まえ、図書館サービスその他図書館の運営に関する適切な指標を選定し、これらに係る目標を設定するとともに、事業年度ごとに、当該事業年度の事業計画を策定し、公表するよう努めると書かれている。

(補記)評価報告書の作成については、同上基準の管理運営 (2)運営の状況に関する点検及び評価等で、自ら点検・評価に努めるのと合わせて関係者・第三者による評価を行うよう努めると書かれている。

岩本委員：子ども読書活動支援センターの目標の3に「図書館を身近に感じてもらえるように、学校の要望に応じて、図書館見学や学校訪問、図書館訪問を実施します。」とある。「図書館訪問」は学校図書館を訪問することと聞いたが、学校図書館の「学校」が抜けている。この目標に対する取組み状況のところで、学校図書館訪問が何回あったのか書かれていないが分かるか。

大平館長：「図書館訪問」は学校図書館の訪問のことであり、修正が今回の配付資料に反映できていなかった。修正する。

桑名参事：実績については、学校への訪問はあったが、学校図書館の訪問はなかった。

岩本委員：学校図書館の担当は1人職場で、専門家の司書が訪問して相談にのれたら喜ばれると思う。検討してほしい。

桑名参事：学校に直接訪問して読書活動支援者の方と話すことも大切だと認識している。子ども読書活動支援センターを設置したことで、電話を通じて直接話をする機会は増えた。訪問に限らず、いろんな形で学校や学校図書館との連携を進めていきたい。

大坪委員：サービス方針5の特色あるサービスの多文化サービスの2に「外国にルーツを持つ児童を支援するため」の取組み、提供を進めますと書いてある。実際、学校にはさまざまな国の子供たちが来ていて、日本語はもちろん母国の言葉ですら十分に獲得できていないまま、読み書きしている中、とてもありがたい。今回記載されていること以外に、取り組んでいることがあれば教えてほしい。

高砂館長：学校への団体貸出で母語が外国語の児童の要望を受けた。(昨年度は)母語が中国語の児童が国語の単元に取り組むために、『ごんぎつね』の中国語版を、一昨年度はベトナムがルーツの子供に、ベトナム語の絵本を、いずれも大阪府立図書館から借用して提供した。

岸本委員：サービス方針7の指標で、(ボランティア総数が)40人プラスにならなかったという話だったが、40人プラスは最大限で、(目標を達するのは)なかなかあり得ないのでは。既存の人が辞めたりする。単純に増えれば「A」なのではないか。

桑名参事:御指摘のとおりだが、基本的に経年比増を目標として取り組みを進めている。ボランティア養成講座を実施し、全員参加していただく想定で、講座定員分増と設定している。

大平館長:40名は確実に増やしていきたい。図書館フレンズという個人で自由に参加できるボランティアの募集もしており、変動的に増える余地がまだあり、現状の実績としていい結果が出ていると考えている。

領木委員:3ページの「BESデータ」とは何か。

佐野館長:「点字編集システム」で打った点字データのこと。便利な点は、点字プリンタで打ち出さなくても、携帯できる点字ディスプレイ機などのデジタル機器で点字を読むことができる。図書館の利用案内を点字で読みたいという方のために、BESデータをホームページにあげたい。音声は読み上げソフトで読めるが、点字が便利という方もいる。

領木委員:そんな便利な機械があると、もっと広く皆さんに知ってもらいたい。

3 報告事項

(1)「令和7年度(2025年度)吹田市立図書館の目標」について

(事務局説明)

(質疑応答なし)

(2) 令和7年度当初予算について

(事務局説明)

岩本委員:図書購入費が、前年度と同額なのはよかったが、世の中の物価上昇に伴い購入できる冊数が減っているのではないかと。そのことが、全体的に貸出数が減っている一因にもなっているのではないかと。図書購入費が増えればよい。

大平館長:予算の使い方を工夫して対応したい。

(3) 吹田市立図書館の報告事項について

添田主幹:夏休み期間に合わせ、図書館司書がおすすめる本を紹介したパンフレット「もうよんだかな?」「てくてく」を作成し、ダイジェスト版を市立小学校・中学校を通じて全児童・生徒に配布する。「てくてく」の特集ページは、募集した中学生から18歳の編集委員によるもの。期間中、全図書館で「夏休み文庫」の特設コーナーを設け、掲載図書の貸し出しを行う。その他、夏休み期間には、「宿題タスケルンジャー」として調べものの相談に対応する取組を今年も実施する。「すいた電子図書館」では、子供向け電子書籍を夏休みに合わせて新たに増やしている。

(4) 吹田市立北千里図書館(まちなかりビング北千里)令和6年度事業報告について

川本館長:複合施設の特長を生かし、図書館、公民館、児童センターの利用者に参加しやすいイベントを心がけている。2回の大型イベントは「まちきた子どもフェスタ」、「まちきたオー

タムフェスタ2024」と名付け、地元の大学や団体に協力いただき、大勢の方の参加があった。「まちきたオータムフェスタ2024」で開催した「中高生のためのボードゲーム大会」では、小学生の参加もあり、中高生が小学生と一緒に遊ぶ、世代間交流もあった。イベント実施時には会場内に関連本の展示を行い、図書や図書館の利用につなげている。施設全体の月平均来館者数については、初年度より横ばいで令和5年度に比べるとやや増加。週末や休日を中心に多くの方に利用されている。令和6年度の運営の検証を行い、引き続き皆様に満足いただける運営に努める。

領木委員：各種行事に手話通訳の準備はあるか。

川本館長：令和7年度から行っている。

4 その他

(1) 次回日程について

(事務局説明)

(2) その他

岩本委員：窓口等業務の委託事業者が変わったことにより、どのような変化があったか。

大平館長：令和7年2月1日から4館で委託事業者が変わった。当初は不慣れなため作業に時間がかかることもあったが、現在は業務に慣れ対応できている。

岩本委員：予約の本が届くのが遅い等あったのではないか。また、事業者の選定方式がポータル方式から入札方式に変わったと聞いたが、なぜ変えたのか。

大平館長：2月からの窓口等業務の契約に係る入札は、制限付一般競争入札で行った。(令和2年度に)同方式で行った実績がある。図書館では、様々な選定方式・運営をしてきて一定のマニュアルができています。図書館の専門的な業務は、全館に市職員の司書を配置して担っているため、司書としての専門性を要しない業務については、入札方式での調達とした。なお、事業者には図書館で働いたことがある経験者を一定配置するよう求めている。

岩本委員：事業者には司書資格を求めているとのことだが、図書館の知識を持つ人の配置が望ましいと思う。今後、仕様書に司書資格を含めるよう求めたい。また、業務量に見合った人員が配置されているのかも気になる。

大平館長：事業者側の人員配置については事業者の裁量の部分であるが、適正にされていると考える。御意見として伺う。

領木委員：事業者が変わったことで、本の並べ方が乱雑になっている印象を受ける。

大平館長：改善が必要な点については、事業者に改善を申し入れたい。

※以下、当日は会議終了後、非公開で扱われましたが、公表にあたり議事録に含めています。

1 ビデオテープ及びカセットテープ資料の提供終了について

澤井館長：吹田市立図書館で所蔵しているビデオテープ及びカセットテープの利用者への貸出について、令和7年末で終了する予定。理由は、大半の資料が購入から20年以上経過しているため、再生困難なもの(画像や音声が悪化して視聴できないもの)が増えている

こと。劣化したテープ資料は、利用者の再生機器の故障原因になりかねないこと。視聴覚資料の利用の主流は、CDやDVDに代わり、ビデオテープやカセットテープの貸出数は減少傾向であること。大阪府や吹田市など、地域に関するものについては保存する。

丁寧に周知を図っていく。

日置副委員長：提供終了後の資料の扱いはどのようなになるのか。

大平館長：段階的に除籍する予定。